

1.平成 15 年度調査報告について

1-4 景観

1-4-1 景観

現地調査計画 目的・方法・時期・対象範囲

調査の目的

平取ダム建設を予定している周辺には、戦前より開拓された牧野が広がり、隣接して日本一の広さを誇るスズラン群生地があります。また、アイヌの方たちが生活空間としたとされる地域でもあります。

平成 15、16 年度の景観調査は、主要な眺望点や事業実施区域周辺の生活の場における身近な眺望点、景観資源を地元住民への聞き取り調査等により抽出するとともに、これら地域特有の景観の事業実施による影響を検討することを目的とします。

調査の方法

調査項目	調査方法
主要及び身近な眺望点、景観資源の把握	平取町民 30 名に対してワークショップ方式でヒアリングを行い、計画地周辺の写真等を示しながら、地図上に眺望点や景観資源を抽出する。 ヒアリング調査により得られた地域の景観を代表する言葉（形容詞）や写真を用い、アンケート調査により平取町住民の景観意識を把握する。
現地調査 景観ベースマップ	数値地形モデル等によりダム堤体の可視・不可視領域を設定する。またヒアリング調査や現地調査で得られた主要及び身近な眺望点からの景観資源の特性を把握する。
景観検討	事業計画の重ね合わせにより変更の位置、程度を把握するとともに、CG等の視覚的資料により景観変化を検討する。
環境保全措置の検討・検証	景観検討結果から環境影響がない又は極めて小さいと判断される場合以外においては、環境保全措置の検討・検証を行う。

調査日程・実施状況

調査項目	調査時期	実施状況
主要及び身近な眺望点、景観資源の把握	平成 15 年 12 月～H16 年 1 月 平成 16 年 2 月	ヒアリング調査終了 アンケート調査終了
現地調査	平成 15 年 10 月、16 年 2 月 平成 16 年 5 月、16 年 7 月	平成 15 年度現地調査は終了
景観ベースマップ	平成 16 年 2 月	景観ベースマップ作成終了
景観検討	平成 16 年度	平成 16 年度実施予定
環境保全措置の検討・検証	平成 16 年度	平成 16 年度実施予定

対象範囲

(1) 視覚からの設定

調査対象範囲は、環境影響要因の中で、景観に影響を及ぼすおそれのある「ダム堤体」を指標とし、ダム堤体を中心に堤長の 100 倍の半径とする円内を範囲とします。

(2) 可視領域からの設定

ダム堤体を眺望できる範囲（可視領域）を設定します。

調査フロー

平成 15 年度実施

現地調査  
(秋、冬)

1) 主要及び身近な眺望点、景観資源の把握  
ヒアリング調査  
アンケート調査



2) 景観ベースマップ作成



平成 16 年度実施

現地調査  
(春、夏)

3) 景観検討（変更の位置、程度の把握）



4) 環境保全措置の検討・検証

平成 15 年度調査結果

主要及び身近な眺望点、景観資源の把握

(1) ヒアリング調査

ヒアリング調査により、平取町全域と事業実施区域周辺地における主要及び身近な眺望点、景観資源を把握しました。このうち、事業実施区域周辺地および環境影響要因を視認できる領域(可視領域)にある主要及び身近な眺望点、景観資源を景観ベースマップとして整理しました。(図1参照)

主要及び身近な眺望点		景観資源		
・すずらん群生地	・豊糠橋	・すずらん群生地	・芽生地区のサクラ	・豊糠の山並み
・道道芽生貫気別線	・宿主別橋	・ダム上流右岸の岩山	・芽生地区の牧草地	・荷負富士
・豊糠小中学校周辺		・総主別川の三段滝	・宿主別川のホタル沢	・その他

(2) アンケート調査

写真と形容詞を用いたアンケートにより、好きな景観と景観意識を把握しました。

【回収結果】送付数：343部 回収数 144部 回収率：42% (有効回答数 133部)

好きな景観

- ・最も「好きな」景観は、「すずらん群生地」である。
- ・好きな理由の形容詞は、「自然的な」「穏やかな」が多く挙げられている。

順位	第1位	第2位	第3位
場所	すずらん群生地	牧草地の風景	二風谷(にぶたに)湖
理由	・自然的で雄大な風景 ・すずらんが非常にきれい	・広々として自然的 ・牧草地と大木が良い	・自然と調和している ・周囲が明るい風景
写真			

景観意識

平取町及び平取ダム事業実施区域周辺地における景観のイメージ(形容詞)を把握した。

平取町住民が抱く景観イメージを表現する形容詞は、第1位「広い、すっきりした、大きい(空間の広さ)」、第2位「田園的な、自然的な(自然の豊かさ)」、第3位「きれい(きれいさ)」、第4位「穏やかな、なだらかな(穏やかさ)」である。

また、好きな景観の第1位、第2位の写真が「空間の広さ」「自然の豊かさ」を表している要因となっており、事業実施区域周辺地は平取町を代表する景観を有しているという結果となった。

現地調査・景観ベースマップ

現地調査は主要及び身近な眺望点、景観資源を対象に、平成15年度は秋、冬の2期行い、主要及び身近な眺望景観の特性を把握しました。

標高メッシュデータによる数値地形モデル等によりダム堤体を望むことのできる可視領域を設定するとともに、ヒアリング調査で得られた主要及び身近な眺望点、景観資源を重ね合わせ、景観ベースマップとしました。

1.平成 15 年度調査報告について

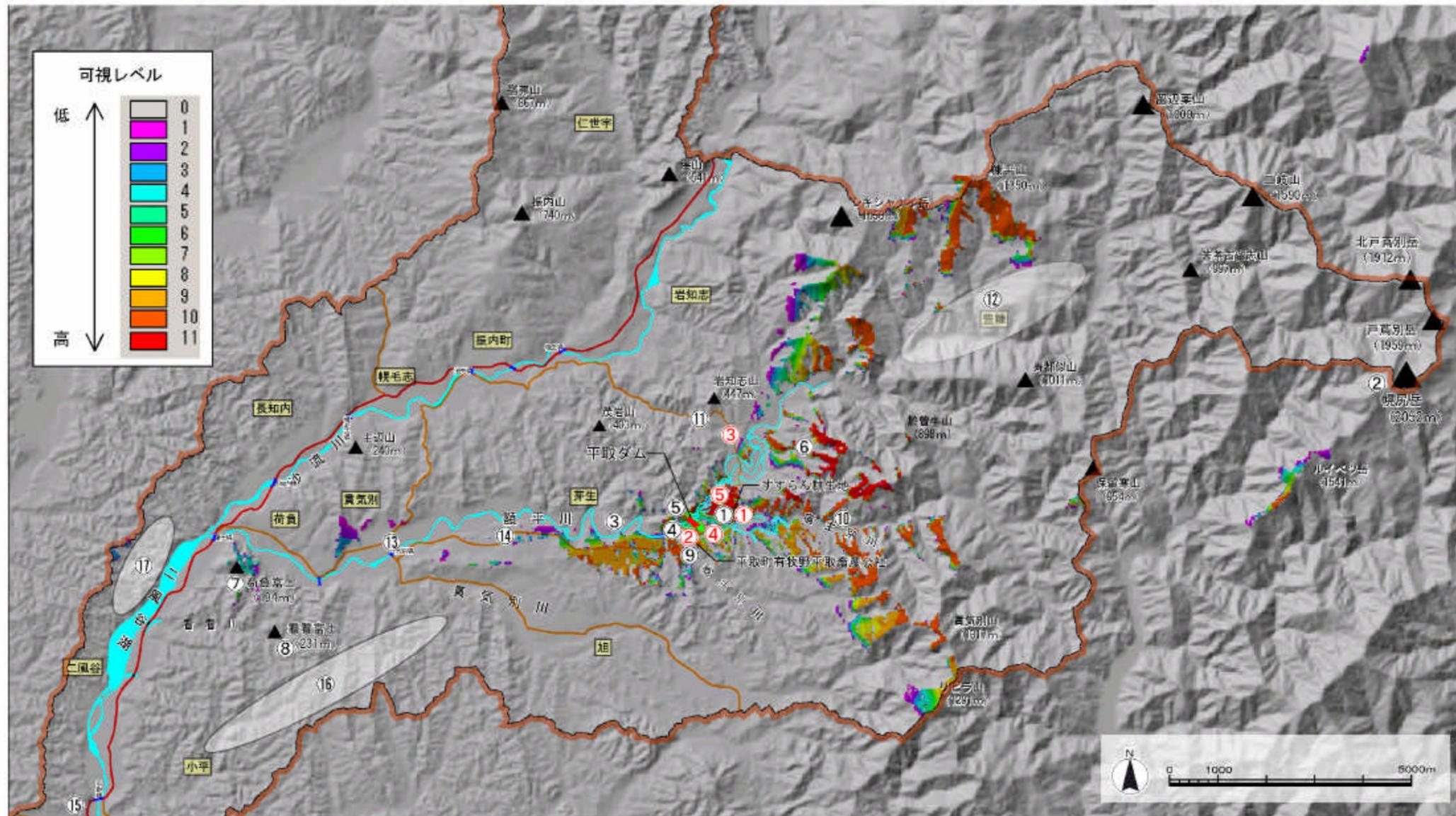


図 1. 景観ベースマップ



すずらん群生地周辺からダム堤体方向を望む(秋)  
すずらん群生地及び牧草場が広々とした景観を形成している。



道道芽生貫気別線からダム堤体方向を望む(秋)  
額平川右岸に連続する山並みが印象的で、周辺は牧草場が広がり広々とした景観を形成している。



豊糠小中学校からダム堤体方向を望む(冬)  
当視点場からはダム堤体を望むことができない。

景観資源		主要及び身近な眺望点
すずらん群生地	宿主別川ホタルザワ	すずらん群生地周辺
幌尻岳	桂峠(カタクリ、エゾエンゴサクの群落)	道道芽生貫気別線
額平溪谷(崖地の風景)	額平川上流の沢の景観	豊糠小中学校
芽生地区の牧草地風景	貫気別地区のサクラ、ナラの木	宿主別橋
平取ダム上流右岸の崖地	芽生地区のサクラ	豊糠橋
豊糠の山並み風景(紅葉)	義経神社のカタクリの群落	
荷負富士	アベツ川沿いの山菜ルート	
看看富士(紅葉風景)	二風谷湖周囲の山並み	
総主別川の三段の滝、周囲の天然林		

\* 「景観資源」「主要及び身近な眺望点」は、ヒアリング調査で把握したもののうち、主に事業実施区域周辺地および環境影響要因を視認できる領域(可視領域)にあるものを整理している

\* 可視レベルの数値(色分け)は、ダム堤体がどの程度見えるかについての割合(堤体長比)を示している



豊糠橋からダム堤体方向を望む(秋)  
額平川右岸に連続する崖地が象徴的な景観を形成している。



宿主別橋からダム堤体方向を望む(冬)  
ダム堤体右岸の崖地が象徴的な景観を形成している。